

山びこ通信

9月号

2004.9.12

第4回 山びこクラブ



前回来てくれたお友だち。
また遊びにきてね！

「かみひこうき・きゃっち！」

日時 9月24日(金)

午後 4時～5時30分

場所 ようちえんのお庭

対象 小学生 / 無料(もちろん)

- 紙ひこうきを、虫あみでキャッチしたことって、ありますか？ 雪合戦をするように、作って、飛ばして、キャッチして、あそぼう！ 色々な遊び方が考えられるよ！
- お家に「虫あみ」のある人は、ぜひ持ってきてね！
- 雨の日は、次回の「ダンボールで遊ぼう！」をくり上げて予定しています。(場所は「ひねもす部屋」です)

第7回 青春ライブ授業！



「英語の先にあるもの」

講師 Fujita

日時 9月24日(金)

午後7時～8時30分

場所 第3園舎(つき組の部屋)

対象 中学・高校生・一般 / 入場無料

- 講師は、山の学校で英語クラス(「中1・英語の基本」、「高校・英語の読み書き」)を担当している先生です。
- 英語を勉強して、一体その先に何があるのか？
- 英語の先にひらけて見えた、講師なりの現在の風景を話していただきます。
- ふるってぜひ、ご参加ください！

○ 『山びこクラブ』『青春ライブ授業！』は、お電話またはFAX(別紙)にてお申し込みください。

電話 075-781-3200 / FAX 075-781-6073 ホームページ <http://www.kitashirakawa.jp/>
電子メール taro@kitashirakawa.jp ウェブログ <http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>

高校生・『日本語の読み書き』を開設！

(火曜日 / 午後 6:40~8:00)

いよいよ山の学校に、高校生の「ことば」クラスが開設されました。講師は南雲泰輔先生です。南雲先生は小学生高学年の『ことば』も担当されていますが、『日本語の読み書き』には、高校生ならではの授業展開を用意しています。一体、どんなクラスなのか、講師からのメッセージをぜひご一読ください。

『砕く』

『高校・日本語の読み書き』

担当 南雲泰輔

ことばのクラス、秋学期が始まりました。

春学期同様、ひとつのテキストを軸として、多種多様な文章に触れる機会を作っていきます。小難しい文章に対しても「食わず嫌い」を無くすことが、読解力や思考力の基礎を作り上げていくのであり、夥しく文字情報が押し寄せてくる時代であるからこそ、一字一句を疎かにしない正確な読解を常に心がけることが必要とされています。

さて、秋学期からは小学生クラスに加えて高校生のクラスを担当することになりました。

高校生クラスでは、①読解力（さまざまな文章を読みこなす力）、②思考力（さまざまな角度から対象を把握する力）、③記述力（得たこと考えたことを説得的に示す力）を訓練します。小学生クラスでは主に読解が中心となっていますが、高校生クラスでは、特に毎回の授業で大学入試までを視野に入れた小論文指導を行います。

テキストは、小著ではありますが、プラトンの著作である『メノン』を選定しました。小論文は主としてこのテキストに基づいた論題で記述します。難解ではないのか、と問われれば、そうでもないし、そうでもある、と答えることになりましょう。『メノン』の主題は「徳とは教えることができるものか」というもので、形而上的・抽象的なことが苦手な方はすぐに拒絶反応を起こしてしまうようなテーマかも知れません。しかしながら著作の中で述べられているのは非常に具体性に富むもので、通常曖昧模糊として掴み所の無いもののように考えられがちな「徳」のイメージを覆すような行論となっています。

「覆す」と述べました。これが重要です。

授業では、まず何も見ずに質問文（『メノン』からの引用文）に対して自分の考えを記述します。この際、講師である私自身も同じように小論文を記述します。その後、『メノン』の該当箇所を読み、最後に生徒と講師が互いの小論を読み合い質疑応答を行う、という流れです。著作中では、ソクラテスとメノンとが上述の主題について対話をしています。その対話の中に自らも参加してみる、とも言うことが出来るでしょう。そして、自分が書いたこと（＝自分の考え）と、テキスト、他の人の書いた小論を読み比べることによって、はじめに抱いた固定概念を打ち砕いてゆくという経験をします。

かつて『山びこ学校』を編んだ無着成恭は、これを「概念くだき」と呼びました。プラトンは著作の中で、メノンの固定概念を打ち砕かず役をソクラテスに当てています。と同時に、授業では我々も彼等の会話に参加する訳ですから、ソクラテスは我々の固定概念をも打ち砕いて行きます。そこで短絡にも「徳」とは何であるかを知ろうとするのは無意味です。それは片言隻句で不十分に定義されたものに過ぎないでしょう。

蓋し、「徳」とは何であるかは、打ち砕かれた固定概念を拾い集め、今度は違ったやり方で新たに構築し直して行く過程（＝思考する過程）の中で、包括的に体得されてくるものと考えます。それは受動的姿勢では得ることは出来ません。幅広くアンテナを張り、積極的に知識を得、断片的知識の間に有機的関連を構成する意欲。砕け散ったままでいいという気持ちの方が大切なのだらうと思います。

今回の講師は、廣瀬^{かずたか}一隆先生。『考える』ということについて」でした。以下の宿題を考えてきた生徒たちが集まって、議論を行いました。

質問(宿題)

- 1「テレビゲームっていけないことだろうか？」
- 2「勉強と遊びはどう違うんだろう？」
- 3「インドってどんな国だと思いますか？」
- 4「死んだら、どうなると思いますか？」



今回は1と2のテーマで盛り上がりました。(3と4は時間の都合で割愛しましたが、それはまたの機会に)

司会を講師に兼ねていただいたのですが、その進行がさすがだなと感じました。廣瀬先生は、生徒の一つ一つの言葉を受け止めようと熱心で、それも受け止めた後に、必ずレスをつけて投げ返していました。まるでキャッチボールを見ているようで、大変面白かったです。

生徒にしてみれば、受け止めてもらうということには、自分の発言が重んじられていると感じますし、それを別の角度から投げ返してもらうということには、まさにリアリティーを感じてうれしいものです。

その意味では、全体的な議論にはなっていなかったともとれますが、最初はそれでいいのだともとれます。もし廣瀬先生のような通訳の存在がなかったら、あの場がどうなるか想像できないからです。

今は小学校の授業でも討論があるそうですが、しかし生徒の誰かが、「A君が怒っているみたいで怖かった」と言って、それでおしまいになっていたとしたら、それを先生がフォローしていなければ…

すべて生徒任せにしておいて「さあ、やってごらん」と単に場を設定しただけでは、無責任でもあります。

口論と違って議論は、自分の立場や自分の意見が正しいかどうかよりも、参加している全員で、最初よりも正しいものに近づこうとする練習であり、またそれをよしとする価値観を培います。しかしその形に至るまでは、少しずつ、毎回フォローし続ける先生はやはり責任重大です。今回は、そのことが手厚くなされていたという印象を受けました。

「〇〇君はどう思いますか？」と、廣瀬先生から当てられると、その生徒は一瞬、大学生の気持ちになったのではないかと想像します。そしてその後の言葉のボールが、一生懸命なことを喜んで、講師が、「なるほど。間違っていたらすみませんが、つまりそれは、こういうことですか？」と、毎回フォローにあたっていたことが、実際の場を良く保っていました。

もし私が生徒だったら、このような場で話をすることは、もちろん緊張はしますが、逆にうれしいだろうなと感じました。

これから先、どこかで議論の重要性が(あるいは声高に)指摘されるようになったとしても、そう言われるからやってみるという切花を咲かせるのではなく、心からそれが大事だとする『本場』の実現が、山の学校の課題だと考えています。

最後は、廣瀬先生自身が旅されたインドについての自作スライドを発表してもらいました。インドという場所に実際、行って帰ってきた人は、以前と同じ姿をしていても、やはり違う印象を受けます。それは雰囲気とか、「物の見方」とか言うのかもしれない。

インドの旅と、勉強と、『考える』ということが、一体どう廣瀬先生の中では絡み合っているのか?——本人の説明こそありませんが、そこはあえて各人各様にイメージを膨らませる余白があるのだなと思いました。

感想 / 福西亮馬(司会)

Q.だれの言葉が一番心に残りましたか？

- ・「64のコントローラーが母に切られた」——中2
- ・ゲームをするのは、「他の物をけずってまでも」したいことか? というセリフが、何となくびびりした。——中2
- ・楽しいことばかりして自分を甘やかしていたら、いつか返ってくる。——中2

Q. 勉強と遊びのこと

- ・「勉強」っていったら、社会にでていくための知恵をつけるもの? 「遊び」っていったら、自由にできるもの…。(ごく)普通の人は、勉強やらずに、遊びたいって思う。——中2
- ・「勉強」と「遊ぶ」というのは区別はあまりつけられない方がいいと思います。勉強の中にも自分の興味あることは「遊び」になると思うからです。——高1
- ・勉強とは学びの中に楽しみを見つけること、遊びとは楽しみの中で学ぶということだと思ふ。本質的にはそんなに変わらないと思うが学校では学びたくないのもまで学ばされるので勉強が嫌われている理由だと思ふ。——高1

- ・勉強を、あんなに深く考えたこともなかった。四則演算だけで生きていけるという話が出ましたが、それはないと思う。今、勉強することが学校の成績につながり、進学につながり、社会進出の糧になるので。そう考えない人も、もちろんいるし、本当に最終的には、個々の自由だと思ふ。言ったように、後悔しないことが大切。——高1

Q. インドの話

- ・おぼろさんが一番位が高く、扶助も出るということでしたが、そうすればインドの人ほとんどがおぼろさんになりたがるのではないですか?——高1

次回 9月24日 pm7:30~9:00
「英語の先にあるもの」
講師 Fujita
(山の学校・英語クラス担当)

9月「山の学校」カレンダー

火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
<input type="checkbox"/> しぜん(小・低学年) <input type="checkbox"/> ことば(小・高学年) <input type="checkbox"/> かず(小・中級) <input type="checkbox"/> 中1英語の基本 <input type="checkbox"/> 英語の読み書き(高校) <input type="checkbox"/> 数の世界(高校)	<input type="checkbox"/> ことば(小・低学年) <input type="checkbox"/> ことば(小・中学年) <input type="checkbox"/> ラテン語(一般)	<input type="checkbox"/> かず(小・初級) <input type="checkbox"/> かず(小・上級) <input type="checkbox"/> 中2英語の基本 <input type="checkbox"/> 中2数の基本 <input type="checkbox"/> 数と自然(高校)	<input type="checkbox"/> ラテン語(一般)
	10 入園説明会 1 (幼)	20	30 (金曜日のラテン語は 秋学期初回日です)
70	80	90	100
140	150 入園説明会 2 (幼)	160	170
210	220	23休	24休 山びこクラブ pm4:00~5:30 青春ライブ授業! pm7:00~8:30
280	290	300	

9/12(日)am9:30~11:30
「カプラで遊ぼう！」

○…「山の学校」の日 休…休講

『声』

no.8 山下太郎先生

—「英語」クラス

私は語学の勉強はスポーツの練習と似通っていると思っていますので、今日は基礎の勉強を徹底して取り組んでもらいました。

誰もが分かっていると思っている中学1年生1学期の勉強。これをどう取り組むかという・・・。

- 1) 教科書を何度も正確に(自分流でごまかさず)発音する。
- 2) 教科書の文字を正確にノートに写し取る(その際、1で練習したとおり、発音しながら写し取るのが基本)。

これが実に大切で、案外カンマやピリオドが抜けたり、勝手に空想の単語を作り出したり・・・。
このとき、本人の提出したノートの隅々まで目を光らせて赤ペンを走らせます。ひとつひとつのミスについて、丁寧に説明しながら。

- 3) そして、いよいよ自信がいたら教科書を見ないで、教科書の英文をノートに再現します。要は丸暗記をしてもらうわけです。

自分の力だけで2)と3)の練習はできるはずですが。(私はこれを中1から高校3年まで続けました。)どんな教科書でも、すべて「完全に」教科書を見ないで、教科書通りに「再現する」!やればできますが、いきなりは難しい。

これがスポーツ的な練習だと思うゆえんです。実力は絶対つきます。(8月31日の記事)

「山の学校」のホットな情報はウェブログから!
<http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>

クイズ

Q. 空欄には何が入るでしょう?全部同じ動詞が入ります。

…そういう姿を()能力は誰にでも備わり、そういう姿を求める心は誰にでもあるのです。ただ、この能力が、私たちにあって、どんなに貴重な能力であるか、また、この能力は、養い育てようとしなければ衰弱してしまうことを、知っている人は、少ないのです。今日のように、知識や学問が普及し、尊重されるようになると、人々は、物を()能力の方を、知らず知らずのうちに、おろそかにするようになるのです。

物の性質を知ろうとする様になるのです。物の性質を知ろうとする知識や学問の道は、物の姿をいわば壊す行き方をするからです。例えば、ある花の性質を知るとは、どんな形の花弁が何枚あるか、雄しべ、雌しべはどんな構造をしているか、色素は何々か、という様に、物を部分に分けて、要素に分けていくやり方ですが、花の美しさを()時には、私たちは何時も花全体を一目で()のです。だから()ことなど易しいことだと思ひこんでしまうのです。

一輪の花の美しさをよくよく()ということは難しいことだ。仮にそれは易しいことだとしても、人間の美しさ、立派さを()ことは、易しいことではありません。また、知識がどんなにあっても、優しい感情を持っていない人は、立派な人間とは言われまい。そして、優しい感情を持つとは、物事をよく()心をもっている人ではありませんか。

神経質で、物事にすぐ感じて、いらいらしている人がいる。そんな人は、優しい感情を持っていない場合が多いものです。そんな人は、美しい物の姿を正しく()心を持った人ではない。ただ、びくびくしているだけなのです。ですから、()ということも学ばなければならないのです。そして、偉大な芸術というものは、正しく、豊かに()ことを、人々にいつも教えているものなのです。

(小林秀雄『美を求める心』より)